

シナリオから見る話題敬語の使用状況 —第三者話題敬語使用の減少と対面話題敬語の対者敬語化—

李 善雅

キーワード シナリオ、第三者話題敬語、対面話題敬語、対者敬語化、心理的距離

1. はじめに

敬語は大きく話題敬語¹から対者敬語²へ変化しつつあるとしばしば指摘されている。尊敬表現や謙譲表現が、総体として見れば、衰退の方向に進んでいるというのである。辻村・川岸（1991：218）は「尊敬語・謙譲語のみであった上代とは対照的な、いわゆる丁寧語（対話の敬語）のみの時代に向かいつつあると言っては、言い過ぎかもしれないが、対話の敬語が平安時代以降発展し続け、現代においてさらに重要性を増していることは確かであろう」と述べている。

しかし、敬語に関する実態調査はまだ不十分である。そこで本稿では、1990年代の映画のシナリオを1950年代のシナリオと比較することによって、さまざまな場面での話題敬語の使用実態を調べ、今日の共通日本語において話題敬語が衰退しつつあることを客観的に裏付けることを試みる。

2. 調査の方法

『日本シナリオ体系1～6』（シナリオ作家協会発行）と雑誌『シナリオ』から、90年代のシナリオと50年代のシナリオをそれぞれ5篇ずつ選び、話し手・聞き手・話題の人物の間の上下関係、親疎関係、ウチ・ソトの関係などに基づいて会話を場面別に分類する。そして、分類した会話の中で使われている話題

¹ 話題敬語とは、表現される事態の中に登場する人物に対する敬意を表す敬語表現をいう。いわゆる主語を高める表現である尊敬語と、主語を低く待遇することによって補語を高める表現である謙譲語を話題敬語という。

² 対者敬語とは、聞き手に対する敬意を表す敬語表現をいう。いわゆる丁寧語または丁重語、そして美化語が対者敬語に属する。

敬語について、90年代の用法を50年代の用法と比較する。なお、調査の対象とする会話は、次の10篇のシナリオに現れる東京方言を使う大人の発話に限ることにする³。

1951年『愛妻物語』	1993年『復活の朝』
1952年『月の真珠』	1993年『教祖誕生』
1953年『東京物語』	1996年『Shall we ダンス?』
1959年『愛情診断簿』	1997年『恋と花火と観覧車』
1959年『海の地図』	1998年『大安に仏滅』

多数のシナリオから上記の10篇にしぼった理由は、第三者話題敬語の使用可能な場面、すなわち話題の人物が第三者である発話が10回以上現れているからである。他のほとんどのシナリオは、話題の人物が第三者である発話の出現が2回以下の場合が多く、これでは分析にならない。そこで、話題の人物が第三者である発話が少なくとも10回以上現れている上記の10篇のシナリオを選んだ。シナリオの台詞は自然なことばではないという弱点と作家の個人的な言語スタイルが台詞に影響する恐れがあるという問題点を抱えているとは言え、現在と過去の言語意識を比較するには重要な資料になると思われる。

3. 本稿での話題敬語の分け方

本稿では、話題敬語を、尊敬語であるか謙譲語であるかは問わず、話題の人物が第三者であるか、それとも一人称者または二人称者であるかによって第三者話題敬語と対面話題敬語とに分ける。このような分類に基づいて調査を進めるのは、本稿が話題敬語そのものの衰退を調べることを目指しているからである。

3-1. 第三者話題敬語

第三者話題敬語というのは、話題の人物が第三者である場合の敬語である。例えば、次に示す例1のような用例がある。本稿では、表記の簡素化のため、話し手を α 、聞き手を β 、話題の人物を γ と表す。また、話題の人物は会話の場にいないことと、 $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ はお互い知り合いであることを前提とする。

α （母）が β （娘）に γ （自分の夫）に関する話す場合

³ シナリオの登場人物の内、方言を用いる者の発話は、対象発話から除外する。

例 1 「きょうはお父さんも昂奮してらっしゃるんだから」⁴

(1951 『愛妻物語』)

3-2. 対面話題敬語

対面話題敬語というのは、話題の人物が、第一人称者または第二人称者、すなわち、話し手を含む話し手側の人物、聞き手を含む聞き手側の人物である場合である。例えば、次の例 2 から例 4 のような用例がある。例 4 のような場合も対面話題敬語の範囲の中に入れるのは、聞き手の身内について話すときの敬語の敬意は、聞き手に向かっていると見るからである。

α (娘) が β (自分の母) に

例 2 「お母さんもお着更えになつたら?」 (1953 『東京物語』)

α (見合会の会員) が β (見合会の会員) に

例 3 「お返事いただいて本当に嬉しかったです」(1997 『恋と花火と観覧車』)

α (病棟婦長) が β (患者の保護者) に

例 4 「ご主人だって、きっと判つていらっしゃいます」 (1993 『復活の朝』)

4. 本稿での記述の仕方

本稿で「心理的な距離が近い関係」と言うとき、それは親しい関係、ウチの関係を意味する。本稿の資料では、家族に関するものがほとんどを占めている。調査対象とする発話は、上下関係の存在する家族同士の会話であって、例えば、次の例 5 と 3-1 で示した例 1 のように、子が親に関して話すときの発話、妻が夫に関して話すときの発話、または例 6 と 3-2 で示した例 2 のように、妻が夫と話すときの妻の発話、子が親と話すときの子の発話などである。夫の妻への発話は50年代も90年代も変わらず無敬語⁵なので、本稿では扱わないことにする。

α (娘) が β (母) に γ (父) に関して話す場合

例 5 「あんまりだわ、お父さまも一沼崎さんに急に家を出て行けだなんて—
仰有ることが無茶だわ」 (1951 『愛妻物語』)

⁴ 「_____」は話題敬語が使われたところを示し、「████」は話題敬語が使われそうなところに使われてないことを示す。

⁵ 「無敬語」とは、話題敬語が使われてないという意味である。

α (妻) が β (夫) に

例6 「そんなこと仰有ってもいづれは許しておやりになるでしょう」

(1951『愛妻物語』)

一方、本稿で「心理的な距離が遠い関係」と言うとき、それは親しくない関係、ソトの関係を意味する。例えば、次に示す例7、例8のように、親しくない関係、またはソトの関係で、上下関係がある場合とない場合がある。まず、例7のようにある上下関係に置かれていて、下位者が上位者に関して話すときの発話、また例8のよう、上下関係の特定できないただの知り合い（親しくない・ソトの関係）に関して話すときの発話がある。そして例9や例10のように、親しくない関係、ソトの関係でありながら、ある上下関係に置かれている下位者が上位者と話すときの下位者の発話、上下関係の特定できないただの知り合い（親しくない・ソトの関係）同士の発話などがある。このように本稿では、下位の者から上位の者への発話と、上下関係のないただのソトの関係、または親しくない関係にある人同士の発話を調査対象にし、上位の者から下位の者への発話は調査の対象から除外する。しかし、普段は敬語が使われるわけのない場面（たとえば親が子供と話すときの親の発話や上司が部下と話すときの上司の発話など）でも、敬語が使われている台詞は調査対象にし、どういう意図で使われているのかを考察する。

α (外村に雇われている管理人) が β (外村の知合い) に γ (外村) に関して話す場合

例7 「船長が船で倒れられました」 (1959『海の地図』)

α (弁護士) が β (工務店の店員) に γ (工務店の社長) に関して話す場合

例8 「岡本さん、いないんですか?」 (1998『大安に仏滅』)

α (患者) が β (医者) に

例9 「先生、ちょっとお話ししたいことがあります」 (1993『復活の朝』)

α (見合会の会員) が β (見合会の会員) に

例10 「ちょっとお話を伺ってもいいですか」 (1997『恋と花火と観覧車』)

なお、以下において第三者話題敬語使用の減少と対面話題敬語の対者敬語化を考察するにあたり、シナリオの場面を次のように分類して論を進める。

<グループ1> 第三者話題敬語

① 話し手と聞き手の心理的な距離が近く、話し手と話題の人物も心理的な距離が近い場合

② 話し手と聞き手の心理的な距離が近く、話し手と話題の人物は心理的な距

離が遠い場合

- ③ 話し手と聞き手の心理的な距離が遠く、話し手と話題の人物も心理的な距離が遠い場合

<グループ2> 対面話題敬語

- ④ 話し手と聞き手の、心理的な距離が近い関係である場合
 ⑤ 話し手と聞き手の、心理的な距離が遠い関係である場合

5. 第三者話題敬語使用の減少

第三者話題敬語というのは、3-1で説明した通り、会話の場にいない第三者にかかる話題敬語のことを言う。ここでは、90年代と50年代のシナリオに現れる第三者話題敬語の使用率をそれぞれ調べてからそれを比較し、現在の日本語の敬語における第三者話題敬語使用の減少を客観的に裏付ける。

5-1. 話し手と聞き手の心理的な距離が近く、話し手と話題の人物も心理的な距離が近い場合

本稿の資料では家族に関する発話がほとんどを占めている。シナリオ別の話題敬語使用状況は次の表1のとおりである。表記に当たって、「16/29」という表記は、用例29件の内16件が話題敬語使用であるということを表す。

表1

50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)	シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)
1951年『愛妻物語』	9／10(90%)	1993年『復活の朝』	0／1(0%)
1952年『月の真珠』	6／9(67%)	1993年『教祖誕生』	
1953年『東京物語』	1／10(10%)	1996年『Shall we ダンス?』	0／5(0%)
1959年『愛情診断簿』		1997年『恋と花火と観覧車』	
1959年『海の地図』		1998年『大安に仏滅』	0／8(0%)
合計	16／29(55%)	合計	0／14(0%)

50年代のシナリオの中で話題敬語使用率が一番低い1953『東京物語』を見てみよう。唯一話題敬語を使用した用例は、文子（母）が息子に自分の夫（息子にとっては父）の話をする場合である。他の無敬語の9件は、しげ（娘）が夫

または兄に自分の親の話をする場合、また幸一（息子）が妹または妻に自分の親の話をする場合である。しかし、しげも幸一も親の前で話す場合、つまり対面話題敬語の場合は、100%の使用率を見せている。言い換えれば、しげと幸一は、親の前ではきちんと尊敬・謙譲表現を用いるが、いないときは使わないということである。ここで注目したいのは、しげと幸一のキャラクターである。このシナリオの中で彼らは、母が死んだという連絡で田舎に行くが、何の悲しみも見せず、母の持ち物の中で欲しかったものを手に入れると、忙しいということをいいわけに後の世話は人に任せて帰ってしまう人物である。作家は彼らがこういう人格の持ち主だということを第三者話題敬語の無使用で表そうとしたのではないかと思われる。

上の表1は、このような特殊な傾向を見せている『東京物語』も入れた結果であって、この表1から『東京物語』の例を除いてパーセントを出してみると次の表2のようになる。

表2

	50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
	話題敬語使用 の件数	話題敬語使用 のパーセント	話題敬語使用 の件数	話題敬語使用 のパーセント
5-1	15/19	79%	0/14	0%

以上のデータから家族同士での第三者話題敬語の使用に関して、50年代と90年代との間に大きな差があることが分かる。これは、家庭内の上下関係に次の図に示したような変化が起こったことと深い関係があるように思われる。

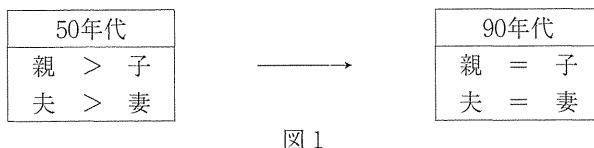


図1

家族同士での上下関係が弱化するにつれ、敬語使用の必要性が減り、現代にいたっては第三者話題敬語は勿論、対面話題敬語の使用率も0%に近くなっている⁶。

これを全体的な敬語使用の面で図示してみると次のようになる（この図は、

⁶ 後述の6-1を参照されたい。

国立国語研究所（1994）で、日本人のウチ・ソトに関する意識をアメリカのそれと比較するとき使われた図を応用したものである）。

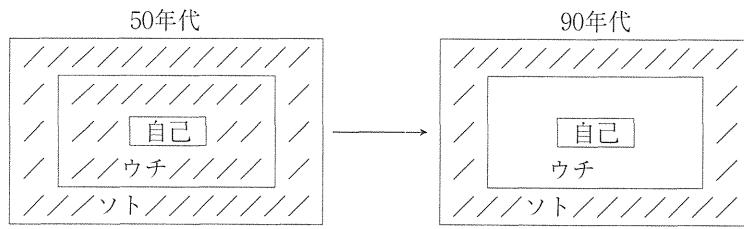


図2

図2が示すように、50年代では敬語使用の範囲がウチの関係とソトの関係におよんでいるが、90年代ではソトの関係が中心になっていると思われる（勿論ウチの関係での敬語が完全に消滅しているということではない）。この家庭内での無敬語傾向は、国立国語研究所（1983）が岡崎市を対象に行なった『敬語と敬語意識—岡崎における20年前との比較』が示す結果と一致するところがある。この調査の結果によれば、敬語形式の丁寧さについては、大きな差異は見られなかったが、敬語意識について顕著な差異が見られたとして7項目をあげている。その中の一つが家庭内の敬語の問題についてである。それは、「家族同士で敬語を使うか否か」という点では「使わない人」が20年間に大幅に増加しており、使わない人は使う人に比べて敬語に対する意識が強く、敬語形式の面では丁寧な人が多いというものであった。また、これに關係する項目の「家でも敬語を使うべきか否か」についてみると、20年前は多数意見であった「使うべきだ」が減少し、「使わなくてもいい」が過半数になっているというものであった。

5-2. 話し手と聞き手の心理的な距離が近く、話し手と話題の人物は心理的な距離が遠い場合

シナリオ別の第三者話題敬語の使用状況は次の表3のとおりである。

表3

50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)	シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)
1951年『愛妻物語』	16／18(89%)	1993年『復活の朝』	斜線

1952年『月の真珠』	5／5(100%)	1993年『教祖誕生』	3／5(60%)
1953年『東京物語』	7／11(64%)	1996年『Shall we ダンス?』	
1959年『愛情診断簿』	1／2(50%)	1997年『恋と花火と観覧車』	0／2(0%)
1959年『海の地図』	7／8(88%)	1998年『大安に仮滅』	4／16(25%)
合計	36／44(82%)	合計	7／23(30%)

この中1953年『東京物語』の該当例は、文子（39才）が息子または夫（幸一）に夫の親の話をする場合、庫造（49才）が妻（しげ）に妻の親の話をする場合などであって、用例11件の内7件で話題敬語が使用されている。しかし、この中で庫造の発話4件の中3件が無敬語である。これは5-1で見た「しげと幸一」の無敬語発話が表すマイナス的な人格を描いているのと同じような効果を發揮していると思われる。

5-3. 話し手と聞き手の心理的な距離が遠く、話し手と話題の人物も心理的な距離が遠い場合

シナリオ別の第三者話題敬語の使用状況は次の表4のとおりである。

表 4

50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)	シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)
1951年『愛妻物語』	0／1(0%)	1993年『復活の朝』	28／42(67%)
1952年『月の真珠』	4／5(80%)	1993年『教祖誕生』	4／7(57%)
1953年『東京物語』	5／5(100%)	1996年『Shall we ダンス?』	0／10(0%)
1959年『愛情診断簿』	8／10(80%)	1997年『恋と花火と観覧車』	
1959年『海の地図』	5／5(100%)	1998年『大安に仮滅』	2／5(40%)
合計	22／26(85%)	合計	34／64(53%)

まず、同じく病院を舞台とする1959年『愛情診断簿』と1993年『復活の朝』に見られる第三者話題敬語使用における相違点について考えてみよう。1959年『愛情診断簿』の場合、用例10件の内8件が話題敬語使用である。ここでは医者の森本がある患者の話をするときも次の例11から分かるように話題の人物に関するきちんと話題敬語を用いているということを指摘しておきたい。これは、次に述べる1993年『復活の朝』と対照的である。

α （医者）が β （看護婦）に γ （患者）に関して話す場合
 例11 「それから、美也子さんに、至急、病院へいらして下さるよう…」

1993年『復活の朝』の場合、用例42件の内28件が話題敬語使用であって、90年代のシナリオの中で一番高い話題敬語使用率を見せてている。特に看護婦の発話における話題敬語使用率が高い。用例42件の内、話し手が看護婦または医者である場合を取り出して数値化したものを表5に示す。

表5

話し手	話題の人物	話題敬語使用の件数	話題敬語使用のパーセント	総合パーセント
看護婦	医者	17／19	89%	86%
	医者の身内	1／1	100%	
	患者	6／8	75%	
医者	医者	2／6	33%	23%
	患者	0／3	0 %	

この表5から、病院の中での上下関係は以前とあまり変わっていないと言えそうである。特に看護婦と医者は、はっきりした上下関係にあると思われる。そして、看護婦は患者に関してきちんと話題敬語を用いているが、医者の場合はそうではない。これは、1959年『愛情診断簿』の例と対照的である。

次に、1993年『教祖誕生』に見られる絶対敬語的使用について見てみよう。このシナリオの中で教祖は絶対者扱いされ、それに対して現代日本語における一般的な敬語使用法と言える相対敬語に反する使い方がされている。信者同士で会話の場にいない教祖の話をする時は勿論、信者ではない（教団の人ではない）人に会話の場にいない教祖の話をする時も、第三者話題敬語が使われている。

5-4. まとめ

5-1から5-3までの第三者話題敬語の使用率をまとめると、次の表6のようになる。

表6

	50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
	話題敬語使用の件数	話題敬語使用のパーセント	話題敬語使用の件数	話題敬語使用のパーセント
5-1	16／29	55%	0／14	0 %

5－2	36／44	82%	7／23	30%
5－3	22／26	85%	34／64	53%
合計	74／99	75%	41／101	41%

この表は、特殊な傾向を見せている『東京物語』と、第三者話題敬語の使用率にあまり変化のない『復活の朝』と『教祖誕生』も入れた結果である。これらのシナリオを除いてパーセントを出してみると次のように、現代日本語における第三者話題敬語使用の減少が一層はっきりする。

表 7

	50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
	話題敬語使用の件数	話題敬語使用のパーセント	話題敬語使用の件数	話題敬語使用のパーセント
5－1	15／19	79%	0／13	0 %
5－2	36／44	82%	4／18	22%
5－3	22／26	85%	2／15	13%
合計	73／89	82%	6／46	13%

第三者話題敬語の使用減少の主な原因の一つとして、対人関係における上下構造の衰退をあげることができる。現代日本語において第三者話題敬語が依然として使われている場面では、上下関係が以前とあまり変わらないことを見ると、そのことはある程度納得できる。病院での看護婦と医者の関係がそうであり、本稿では分析対象のシナリオではないが、暴力団の組員間にもそのような関係が確認される。暴力団をテーマにする1994年『帰りたい風景』を見ると、組員同士で組の会長の話ををするときはもちろん、警察に取り調べられている場面でも自分の組の会長に対して話題敬語を使う場合があった（もちろん、組の会長は会話の場にいない）。

例12 α （暴力団の組員）が β （警察ら）に γ （組の会長）に関して話す場合
「うちの会長のお考えが…」

暴力団内での敬語使用は、第三者話題敬語の使用率が高いだけでなく、絶対敬語的な敬語使用の傾向があると言えそうである⁷。これはまた、南（1974）が

⁷ 西田（1994：81）は、皇室の記者会見で使われる敬語と大相撲の若貴兄弟が自分の両親

述べた敬語選択にかかわる八つの「人間関係の条件」の内、「社会階層的地位の上下関係」に当たる例だと思われる。社会階層的地位の上下関係というのは、最近はかけがうすくなっている昔の身分、階級による上下関係であり、皇室関係の敬語、宗教における神仏への敬語がこれにあたる。『帰りたい風景』の例と似た例が1993年『教祖誕生』にもある。教祖に関する敬語がそれである。つまり『帰りたい風景』での組長も、『教祖誕生』での教祖も絶対者扱いされ、それに対して、現代日本語における一般的な敬語使用法と言える相対敬語に反する使い方がされているように思われる。

6. 対面話題敬語の対者敬語化

対面話題敬語というのは、3-2で説明した通り、話題の人物が第一人称者または第二人称者、つまり、話し手を含む身内または聞き手を含む身内にかかる話題敬語のことである。ここでは、使用率の比較をするだけでなく、90年代のシナリオに見られる対面話題敬語は、50年代のそれとは違って、「です・ます」といった対者敬語を伴って現れる現象についても考察する。

6-1. 話し手と聞き手の、心理的な距離が近い関係である場合

シナリオ別の対面話題敬語の使用状況は次の表8のとおりである。

表8

50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)	シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)
1951年『愛妻物語』	12／14(86%)	1993年『復活の朝』	
1952年『月の真珠』	11／12(92%)	1993年『教祖誕生』	
1953年『東京物語』	22／22(100%)	1996年『Shall we ダンス?』	0／4(0%)
1959年『愛情診断簿』	8／8(100%)	1997年『恋と花火と観覧車』	0／3(0%)
1959年『海の地図』	10／10(100%)	1998年『大安に仏滅』	3／18(17%)
合計	63／66(95%)	合計	3／25(12%)

90年代のシナリオの場合、妻の夫に対する発話でも、子の親に対する発話で

に対して「親方」「おかみさん」のように使う敬語を、絶対敬語の例としてあげている。

もほとんどが無敬語である。1998年『大安に仏滅』の用例18件の中3件においてのみ話題敬語が使われているが、この3件とも次のような限られた場面で使われている。

- α (妻) が β (夫) に
 例13 「やめて下さい」
 例14 「お願いしますね。」
 α (息子) が β (父) に
 例15 「お邪魔様でした。」

例13は、娘の結婚式の招待客のことで婿の母親が招待客を沢山呼びすぎだと文句ばかり言っている夫に「もういいかげんにして」という意味で使われている。例14は、夫に何かを頼んだときの発話である。例15は、怒ってばかりの父に愛想をつかした息子が我慢できず家を出ていこうとするとき父に言った発話である。このように、今日の妻の夫に対する発話でも、子の親に対する発話でも、話題敬語が使われるのは、怒っている場面か、何かを依頼するような場面など、出現場面が限られているように思われる。ちなみに、同じ傾向は対者敬語が用いられる場合にも見られる。

- α (母) が β (息子) に
 例16 「一度きりだからいいものを着たいんです。」
 α (妻) が β (夫) に
 例17 「これぐらい言わないとダメなんです」

これは心理的距離が近い関係にある人同士の敬語使用の役割の変化とも言える。以上のような例を除いたら、90年代の家庭内での対面話題敬語も第三者話題敬語も使用率は0%に近くなる。

6-2. 話し手と聞き手の、心理的な距離が遠い関係である場合

シナリオ別の対面話題敬語の使用状況は次の表9のとおりである。

表 9

50年代のシナリオ		90年代のシナリオ	
シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)	シナリオ名	話題敬語使用の件数 (%)
1951年『愛妻物語』	31／32(97%)	1993年『復活の朝』	67／75(89%)
1952年『月の真珠』	18／18(100%)	1993年『教祖誕生』	16／19(84%)
1953年『東京物語』	19／19(100%)	1996年『Shall we ダンス?』	21／29(72%)
1959年『愛情診断簿』	49／51(96%)	1997年『恋と花火と観覧車』	32／40(80%)
1959年『海の地図』	20／22(91%)	1998年『大安に仏滅』	19／27(70%)
合計	137／142(96%)	合計	155／190(82%)

この中で1951年『愛妻物語』の場合、用例32件の内31件において話題敬語が使用されており、無敬語の用例は次の例20のみである。

α (浩造) が β (敬太) に

例18 「あんたの想像にお委せしよう」

例19 「きょうとはいわんが、早速この家を出ていていただきたい」

例20 「話がこうなっては、いてもらうわけにはいかんのだ」

浩造は敬太が結婚したい女性の父親であって、年の面でも立場的な面でも敬太より上だと見える。こういう場合でも、話題敬語が使われていることを指摘しておきたい。それも「です・ます」を伴わずに謙譲語だけが用いられている。敬語には、敬意を表す働きだけでなく、相手を隔てる働き、改まった気持ちを表す働き、品位を表す働き、優しさ・丁寧さなどを表す働きなど、いろいろの働きがある。この例18から例20は、敬太を婿として受け入れたくない浩造の気持ちが改まった表現を使うことによってはっきり表れていると思われる。つまり、立場的上位者である浩造がわざわざ敬語を用いることによって、敬太との間に距離を置こうとしているのが分かる。

以上の結果から5-1から6-2の中で一番変化の幅が少ないので6-2(話し手と聞き手の、心理的な距離が遠い場合)であることが分かる。

6-3. まとめ

6-1で見たように、現代の身内同士の会話の中では、無敬語が自然な話し方になっているようである。

6-2 (話し手と聞き手の、心理的な距離が遠い関係である場合)において、50年代のシナリオと90年代のシナリオの間には対面話題敬語の使用に次のような違いが見られる。

▽50年代のシナリオ

- α (看護婦) が β (医者) に
 例21 「先生少し疲れていらっしゃるわ」
 α (華子) が β (森本) に
 例22 「あら、嘘だとお思いになったの?」

▽90年代のシナリオ

- α (病棟婦長) が β (医者) に
 例23 「先生は、逃げてらっしゃるんです」
 α (医者) が β (医者) に
 例24 「お疲れが重なって、体力が弱ってらっしゃるんですよ」

本稿で分析対象にしている50年代のシナリオの中からは、「です・ます」といった対者敬語を伴わずに話題敬語だけで使われる例が数多く得られた。一方、90年代のシナリオでは、話題敬語を使うときは一般的に対者敬語を伴う場合が多かった。90年代のシナリオでも次のように話題敬語のみで使われる場合があったが、これは対者敬語を伴う話題敬語と用法が異なる。

- α (病棟婦長) が β (患者の保護者) に
 例25 「疲れていらっしゃったのよ」
 例26 「ご自分と闘いながら精一杯の看護をなさったのよ」
 α (医者) が β (患者) に
 例27 「協力する、とおっしゃった筈だ」
 例28 「そして、ぼくの治療方針に従えないのなら退院して頂く」

これは、患者の保護者に対する看護婦長の発話と、怒っている医者の患者への発話である。例25と例26は、対者敬語である「です・ます」を使わずに、話題敬語のみ用いることで、尊敬の意味より美化語のような感じで使われていると思われる。そして、例27と例28は、男性の発話であるが、怒っている場面であって、ここで使われている「おっしゃる」「~ていただく」は、尊敬・謙譲の意味を持たないと思われる。これは、野村(1993)の調査結果と一致するところ

ろがある。野村は、「丁寧体を伴わない尊敬・謙譲体」は、女性の方が比較的多く用いるが、男性の使用も珍しくはなく、特に皮肉やからかい、冗談など特殊な意味合いを持つ場合では男性の使用が目立つと述べている。また野村は、人によっては「目上」「目下」などという相手との上下関係にかかわらず、一種の美化語のような感じで尊敬・謙譲体を用いることがあると述べている。以上を次のようにまとめることができる。

- ① 尊敬・謙譲の意を持つ対面話題敬語が対者敬語と共に使われる場合が多いということは、話題敬語の敬意が常に対者に向かっていることを意味する。
- ② 対者敬語を伴わない対面話題敬語は、尊敬・謙譲の意を持たず、美化語のような感じで使われるか、皮肉やからかいなど、特殊な意味で使われることが多い。

上に示した①②から、対面話題敬語は対者敬語化していると言えるのではないかと思われる。

7. 性別と年齢差による話題敬語使用率

上では、第三者話題敬語使用の減少と対面話題敬語の対者敬語化を通じて話題敬語の衰退を客観的に裏付けようとした。この章ではさらに性別と年齢差による話題敬語使用率の差を調べてみることにする。

大体35才を基準に35才以前を若年層、以降を中高年層と見て、男女の性別も加えてまとめると、次の表10と表11のようになる（35才を基準にするととも、ほとんどの場合若年層は25才前後、中高年層は50才前後である）。

表10

シナリオ名	50年代							
	若年層				中高年層			
	第三者 話題敬語		対面 話題敬語		第三者 話題敬語		対面 話題敬語	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
1951年『愛妻物語』	14／15	9／12	18／20	12／12	2／2	/	10／10	3／4
1952年『月の真珠』	5／9	/	5／5	5／6	6／6	4／4	8／8	11／11
1953年『東京物語』	/	/	/	/	10／11	2／5	36／36	5／5
1959年『愛情診断簿』	7／10	/	40／40	1／1	/	2／2	6／6	10／12
1959年『海の地図』	4／4	0／1	20／20	1／3	5／5	3／3	3／3	6／6

話題敬語使用の総合件数	30／38	9／13	83／85	19／22	23／24	11／14	63／63	35／38
話題敬語使用の 総合パーセント	79%	69%	98%	86%	96%	79%	100%	92%

表11

シナリオ名	90年代							
	若年層				中高年層			
	第三者 話題敬語		対面 話題敬語		第三者 話題敬語		対面 話題敬語	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
1993年『復活の朝』	11／14	0／2	22／23	/	16／18	4／14	31／32	14／20
1993年『教祖誕生』	/	/	1／1	/	/	4／7	3／3	12／15
1996年『Shall we ダンス?』	0／3	/	7／11	0／1	0／6	0／6	7／12	8／9
1997年『恋と花火と観覧車』	0／2	/	7／8	8／10	/	/	9／13	8／10
1998年『大安に仏滅』	0／4	0／2	1／5	1／2	5／12	1／11	4／8	15／30
話題敬語使用の総合件数	11／23	0／4	38／50	9／13	21／36	9／38	54／68	57／84
話題敬語使用の 総合パーセント	48%	0 %	76%	69%	58%	24%	79%	68%

上の表10と表11を見ると、同年代の同年層においては、女性の方が男性より話題敬語使用率が高いのが分かる。そして中高年層の方が若年層に比べ、話題敬語使用率が高い点では、90年代も50年代と同じである。

50年代と90年代の話題敬語使用率を比較して、一番変化の大きい層から少ない層へと並べてみると次の表12のとおりである。

表12

1	若年層男性の第三者話題敬語	69%→0 %	-69
2	中高年層男性の第三者話題敬語	79%→24%	-55
3	中高年層女性の第三者話題敬語	96%→58%	-38
4	若年層女性の第三者話題敬語	79%→48%	-31
5	中高年層男性の対面話題敬語	92%→68%	-24
6	若年層女性の対面話題敬語	98%→76%	-22
7	中高年層女性の対面話題敬語	100%→79%	-21
8	若年層男性の対面話題敬語	86%→69%	-17

本稿の5章及び6章の結果から予想できるように、第三者話題敬語にかかる4項目（表12の1～4）の方が対面話題敬語にかかる4項目（表12の5～8）より、変化の幅が大きい。ここで注目したいのは、性別による差である。表12で分かるように、話題敬語使用率の変化の幅が大きいのは、第三者話題敬語の中でも男性の発話である。減少した話題敬語使用率の平均を出して男女を比較してみると、27.5%の差がある。つまり第三者話題敬語の使用率においては男性の方が女性よりも、さらに30%近く減少したということである。50年代においても90年代においても、同年層において男性の方が女性より話題敬語使用率が低いことを考えると、この差はさらに大きく感じられる。また表11を見る限り、女性の中でも、中高年層の女性の方が若年層より話題敬語使用率が高いことが分かる。

以上から、現代日本語において話題敬語使用率が一番高いのは、中高年層の女性であると言える。しかし、本稿で得られた結果はあくまでも限られた数のシナリオに基づく調査結果であって、調査地域と調査対象によって結果が変わってくる可能性は否めない。

8. おわりに

本稿では、50年代のシナリオと90年代のシナリオを調査対象に、場面別に分類した会話の中で使われている話題敬語を調べ、両者を比較することによって、現在の共通日本語の敬語における話題敬語の衰退傾向を客観的に裏付けることを試みた。その結果、50年代に比べ90年代のシナリオにおける第三者話題敬語使用率の減少と、90年代のシナリオに見られる尊敬・謙譲の意を持つ対面話題敬語は対者敬語と共に使われる場合が多いということが分かった。

本稿の調査結果から見られたような話題敬語の使用状況の変化がこの先どうなるか注目すべきであろう。

参考文献

- 井上史雄 1983 「社会構造の変化と敬語の将来」『日本語学』第2巻1号
1995 「丁寧表現の現在」『国文学』第40巻14号
大石初太郎 1983 『現代敬語研究』筑摩書房
川口義一 1992 「議会における丁重語—謙譲語から尊敬語へ—」『辻村敏樹教

- 授古稀記念 日本語史の諸問題』明治書院
- 菊地康人 1994 『敬語』講談社学術文庫 (文庫本は1997年に再刊)
- 国立国語研究所 1983 『敬語と敬語意識—岡崎における20年前との比較—』三省堂
- 1994 『敬語教育の基本問題(上)(下)』大蔵省印刷局
- 辻村敏樹 1977 「日本語の敬語の構造と特色」『岩波講座日本語4 敬語』岩波書店
- 1988 「敬語分類の問題点をめぐって」『国文学研究』94集
- 辻村敏樹編 1991 「敬語について」『敬語の用法』角川書店
- 辻村敏樹・川岸敬子 1991 「敬語の歴史」『講座日本語と日本語教育10』明治書店
- 西田直敏 1994 「絶対敬語とはどんな敬語か」『国文学 解釈と鑑賞』39巻14号
- 野村美穂子 1993 「聞き手が敬意の受け手である場合の『丁寧体を伴わない尊敬・謙譲体』」『日本語教育』81号
- 三上 章 1988 「基本文型論」『三上章論文集』くろしお出版
- 南不二男 1974 「現代敬語の体系」『敬語講座1 敬語の体系』明治書院
- 宮地 裕 1971 「現代の敬語」『講座国語史5 敬語史』大修館書店
- 芳賀 綏 1998 『日本語の社会心理』人間の科学社
- 山口伸美 1995 「尊敬表現の現在」『国文学』第40巻14号
- 渡辺 実 1971 『国語構文論』壇書房